
黒き戦いに向けて

柊 翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒き戦いに向けて

【Nコード】

N7509L

【作者名】

柊 翼

【あらすじ】

出会い、対面、話し合い、対戦、白き戦いの順で読んでこの作品を読んでください。前作読んできると言う方はそのままどうぞお読みください。

（前書き）

この作品にはオリジナルキャラクターが出てきます。

苦手な方はお控えください。でわ大丈夫な方はどうぞ

工藤邸

この家に来てすぐに作ったアイスコーヒーの氷が溶けたころ

部屋の扉が開いた

「あいつらのアジトはつかめたんか？」

遅れてきた白馬に服部が聞く

「ええ… 案外近くですよ… ここです」

地図を広げたその場所は新宿の隅のほうにある

廃ビル

「こんな目立つような所に… アジトを立てるとはなあ」

服部が地図を見ながら言う

「あいつらはおよそ100人体制だ。中でも幹部のコードネームが…ジン、ウォッカ、ベルモット、キャンティ、コルン、バーボンの六人とこいつらのボスであろうあのお方は一番厄介だ」

と赤井さん

「そのあのお方のコードネームは分かっているんですか？」

ジヨデイ先生の隣に座っていた櫻田が口を開いた

「ああ…それもつかめましたよ…ボスのコードネームはパイカルらしいです」

「パイカルって俺が工藤とこに初めて行ったときに土産で渡した酒やないか!!」

服部が大声を出しながら立ち上がった

「それが意図的だとしたら…俺達の知っているやつ人たちが…ボスかもしれない」

考えただけで冷や汗が出る

「考えられるのは…蘭、小五郎のおっちゃん、博士、灰原の4人だ」

もしそうあったらしておいて俺を生かしたのは誰なんだ

「…でも意図的だとしたら…なぜ一番の邪魔者である工藤君を殺さなかったんだ？」

疑問を独り言のように言う赤井さんに櫻田が

「殺さなかったんじゃない…殺せなかったんですよ…きっと、ずっと組織を潰そうと頑張っていた工藤君を見ていたから…殺せなかったんですよ」

うつむきながら櫻田がつぶやいた

「なあ…美音さんあんた随分組織について詳しいないか？」

櫻田震えたの気付いた服部は目を点にしていた

「俺が代わりに話してもかまわないか？」

と赤井さんの声に俺達はうなづく

「美音は…頭脳明晰でスポーツ万能…もちろん射撃の腕前は大会で優勝するほどうまい…そんな美音の情報をどこからかぎつけたのか分からないが…あいつらは連れて行くとした…だが…もちろん断った美音にあいつらは…強行手段で連れて行くとした」

赤井さんの言葉に納得したように服部が言葉をつなげた

「つまり誘拐しようとしたわけやな」

「ああ…美音は確かにあらゆる武道を習い優勝経験者ではあるが…相手は15人で全て男だったんだ…車に乗せられそうになっていたのを…偶然通りかかった俺が助けたんだ…まあやむおえず発砲しまったがな」

と言う

「で…自分が誰に狙われているのか知るために…桜田は自分で調べた…赤井さんの協力を得て…」

「そう…あの事件がきっかけで私は秀一さん以外の男の人に触れられるのが怖くなった」

赤井さんと櫻田はなぜ呼び捨てで呼んでいるのか

そんなちょっとした疑問を抱え

その日の作戦会議は終了した

(つづく)

（後書き）

誤字脱字などがございましたら、お手数ですが感想でお知らせくだ
さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7509/>

黒き戦いに向けて

2011年1月27日04時59分発行